

「日本宗教」第9回

## まとめ

# 現代社会における宗教の役割

## リーディング・アサインメント

『宗教のポリティクス』

「結論」 (173-185頁)



## Overview

- ・ 宗教の起源、日本宗教の起源
- ・ 宗教概念について——宗教のポリティクス
- ・ 愛国心の倫理的パラドクス
- ・ まとめ

## 宗教の起源

- ・ 死者の葬送
- ・ 死者からの影響を抑制するための「とむらい」
- ・ 例：御霊信仰 (平安時代)
- ・ 見えない世界との交流
- ・ テレプレゼンスへの本源的欲求



# 日本宗教の起源

- ・ 周辺文化圏からの影響
- ・ 地政学的なユニークさ



ローマ帝国

皇帝崇拜

宗教 (religio)

迷信 (superstitio)

近代  
日本

国民道徳

宗教

民俗的なもの=迷信

パトリア

現代中国

共産主義

公認宗教

迷信

## 愛国心の倫理的パラドクス

「愛国心はそのなかに倫理的パラドクスをもっており、最も鋭い凝った批判でなければいかなる批判も受けつけないものである。そのパラドクスとは、愛国心は、**個人の非自己中心主義**が**国家の利己主義**に転化する、ということである。国家への忠誠心とは、もしより低い忠誠心や地方的利害などとくらべるならば、それは**高度な利他主義**の形態である。

(中略) このようにして、個人の非自己中心主義は、国家の自己中心主義を助長するのである」 (R. ニーバー『道徳的人間と非道徳的社会』1932年)。

→ ナショナリズムと宗教

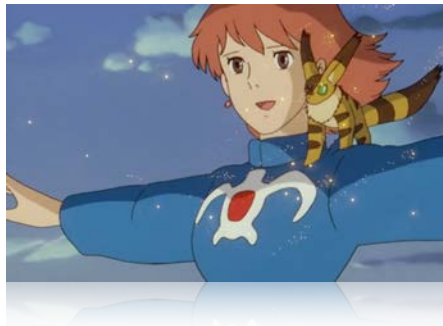
## ま と め

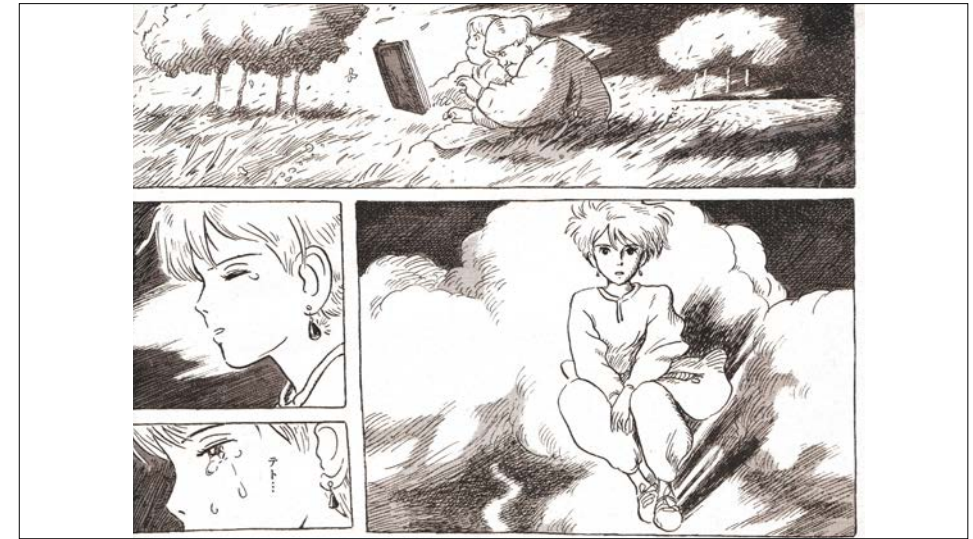
- ・ 宗教は、人間の両極端を見極めるレンズの役割を果たしている。
  - ・ 宗教を学ぶことは人間を学ぶこと。宗教を知ることが人間を知ること。
- ・ グローバルな変化に冷静に対応していくためにも、日本社会の精神的土壌を知ることは重要。
- ・ 文化ナショナリズム (→リバース・オリエンタリズム) に陥らない日本文化・日本宗教に対する理解を養う (排他的ではないアイデンティティ形成)。
  - ・ 比較の視点が必要。

## ま と め

- ・ 宗教は、バーチャルとリアルの往還運動 (バランス) を支える力となり得る。

- ・ 事例: テトの死とナウシカの覚醒 (『風の谷のナウシカ』7より)





## 授業を振り返って

I	導入	
2-9	日本宗教の形成と展開	2 [4/16] (オンデマンド 1) 宗教の風景——日本宗教を概観する 3 [4/23] (オンデマンド 2) 神々の世界 (神道)、仏教以前・仏教伝来 4 [5/ 7] (フィールドワーク 1) 上賀茂神社 5 [5/14] (教室 2) アクティブラーニング 6 [5/21] (オンデマンド 3) 平安時代の宗教、鎌倉仏教 7 [5/28] (オンデマンド 4) 禅とその文化、近世の宗教 8 [6/ 4] (フィールドワーク 2) 西本願寺 9 [6/11] (教室 3) アクティブラーニング
10-15	近現代における日本宗教	10 [6/18] (オンデマンド 5) 近代日本における政治と宗教 11 [6/25] (オンデマンド 6) 一神教と多神教、宗教の多元化と多元主義 12 [7/ 2] (教室 4) アクティブラーニング 13 [7/ 9] (オンデマンド 7) 信仰の土着化とナショナリズム 14 [7/16] (オンデマンド 8) 現代社会における宗教の役割 15 [7/23] (教室 5) アクティブラーニング、総括

Facts

Theories

